

# 経済・金融 フラッシュ

## 米6月ISM指数:製造業が50超 の半面、非製造業は50割れに

経済調査部門 主任研究員 土肥原 晋

TEL:03-3512-1835 E-mail: doihara@nli-research.co.jp

### 1、製造業指数が50.2と回復の半面、非製造業は3ヵ月ぶりに50を割り込む

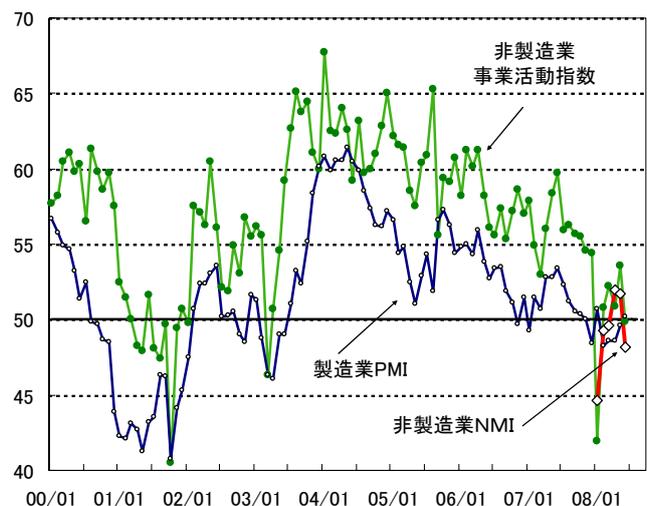
企業のセンチメントを示すISM(米供給管理協会)指数は、6月製造業指数(PMI)が50.2と、前月(49.6)、市場予想(48.5)をとともに上回った。製造業の拡大・縮小の分かれ目とされる50を上回ったのは、本年1月(50.7)以来5ヵ月ぶりのこととなる。自動車産業等で悪化が深まる中での上昇であり、輸出産業等を中心に比較的堅調推移にある業種も多いことを示した形だ。ただし、指数の内訳を見ると、在庫指数が全体を押し上げており、景気先行的な受注指数が低下、全体の温度差を図る雇用指数が5年ぶりの低水準に落ち込むなど、実態は芳しくない。業種別で6月に上昇を見せたのは9業種で、コンピュータ・電子機器、石油製品等、食品・飲料等、化学、金属素材等を含み、悪化を見せたのは電気製品・部品、輸送機器、機械、衣料品等だった。

一方、5月の非製造業指数(NMI:注)は48.2と5月(51.7)から▲3.5ポイントの大幅下落となり、市場予想(51.0)を下回り3ヵ月ぶりに50を割り込んだ。また、これまで非製造業の景況感を示す指数とされていた事業活動指数も49.9と前月(53.6)からの低下が大きく、こちらは5ヵ月ぶりに50を下回った。事業活動指数は、1月に41.9とテロ事件直後の2001年10月(40.5)以来の低水準に落ち込んだが、2月以降50台を回復していた。

以上のように、6月ISM指数は、製造業では50を回復する一方、非製造業では、50を割り込むなど、明暗を分けた形である。しかし、製造業の上昇は在庫指数上昇によるところが大きく、また、新規受注の停滞、雇用指数の悪化、仕入れ価格の急騰等の動きは両業種で共通するなど、全体としては、製造業から非製造業へと景気減速の広がりを窺わせるものと言えそうだ。

(注: NMI(Non-Manufacturing Index)は、本年1月より非製造業指数の総合指数として発表を開始。事業活動、新規受注、雇用、入荷遅延の各指数の均等ウェイトで構成されている。)

(図表1) ISM指数の推移(月別)



(資料) Institute for Supply Management、以下も同じ。

(各指数の内訳)

## 2、製造業各指数では、在庫・価格指数上昇の半面、雇用がさらに低下

ISM製造業指数の各指数のうち、6月の動きで2ポイント以上の上昇となったのは、顧客在庫(前月 47.0→55.0)、価格指数(前月 87.0→91.5)、在庫指数(前月 48.0→51.2)で、反対に下落が大きかったのは輸入指数(前月 49.5→46.0)だった。

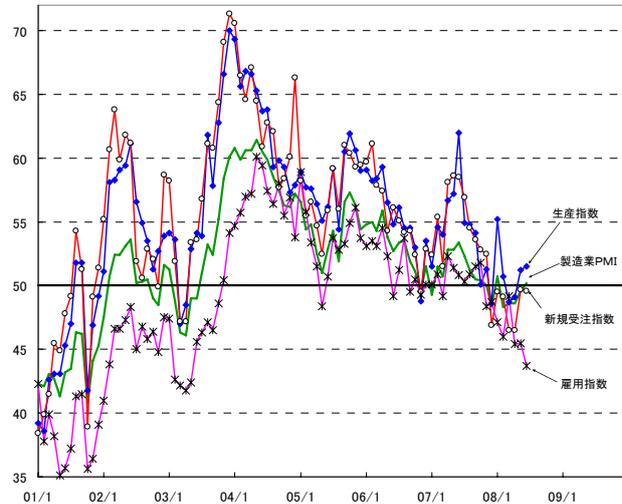
その他の主要指数の動きを見ると、新規受注(前月 49.7→49.6)、生産指数(前月 51.2→51.5)は小幅の動きで、雇用指数(前月 45.5→43.7)が悪化するなど、今回のPMIを押し上げたのは、上記の在庫指数と入荷遅延(前月 53.7→55.1)によるところが大きい。

在庫指数が50を超えたのは、26ヵ月ぶりのこととなるが、在庫増の業種は、前記の業況悪化業種と重なるため、「顧客の在庫増」を受けた出荷の停滞による「意図せざる在庫増」の可能性が高い。

また、雇用指数の43.7は03年5月(42.4)以来の低水準となる。製造業の雇用増減の境目となる49.5から下方への乖離が拡大しており、製造業に於ける雇用減の拡大を示唆している。

また、価格指数は更なる上昇(前月 87.0→91.5)を見せたが、原油・商品価格高騰等を背景にしたものであり、第二次オイルショック時の1979年7月(93.2)以来の高水準となった。84%の回答(5月は78%)が仕入れ価格の上昇を指摘するなど、価格上昇圧力の一層の高まりを窺わせる。

(図表2) ISM製造業指数の内訳と推移(月別)



(図表3) ISM指数製造業と非製造業指数の一覧

	製造業指数								非製造業指数							
	6月	5月	4月	3月	2月	1月	12月	5→6月 変化幅	6月	5月	4月	3月	2月	1月	12月	5→6月 変化幅
PMI/NMI	50.2	49.6	48.6	48.6	48.3	50.7	48.4	0.6	48.2	51.7	52.0	49.6	49.3	44.6	N/A	▲ 3.5
生産/事業活動	51.5	51.2	49.1	48.7	50.7	55.2	48.6	0.3	49.9	53.6	50.9	52.2	50.8	41.9	54.4	▲ 3.7
新規受注	49.6	49.7	46.5	46.5	49.1	49.5	46.9	▲ 0.1	48.6	53.6	50.1	50.2	49.6	43.5	53.9	▲ 5.0
雇用	43.7	45.5	45.4	49.2	46.0	47.1	48.7	▲ 1.8	43.8	48.7	50.8	46.9	46.9	43.9	51.8	▲ 4.9
入荷遅延	55.1	53.7	54.0	53.6	50.1	52.8	52.6	1.4	50.5	51.0	56.0	49.0	50	49	52.5	▲ 0.5
在庫	51.2	48.0	48.1	44.9	45.4	49.1	45.4	3.2	53.0	54.0	47.0	51.5	50	44.5	50.5	▲ 1.0
価格	91.5	87.0	84.5	83.5	75.5	76	68	4.5	84.5	77.0	72.1	70.8	67.9	70.7	71.5	7.5
受注残高	47.5	46.0	51.5	47.5	45.0	44	43	1.5	49.0	49.0	50.0	47.5	49.5	46	49	0.0
新規輸出受注	58.5	59.5	57.5	56.5	56.0	58.5	52.5	▲ 1.0	52.0	54.0	48.5	55.0	46.5	52	50	▲ 2.0
輸入	46.0	49.5	48.0	45.0	47.5	52.5	48	▲ 3.5	50.5	48.0	50.0	54.5	49	41.5	50.5	2.5
在庫センチメント	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	60.0	66.5	63.0	60.5	60.5	57	64.5	▲ 6.5
顧客在庫	55.0	47.0	45.0	51.0	49.0	49.5	51.5	8.0	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A

この他、輸出受注指数（前月 59.5→58.5）、輸入指数（前月 49.5→46.0）とも低下の動きを見せたが、輸出指数の水準が輸入指数を 12.5 ポイントも上回るなど、製造業の輸出が依然堅調で、純輸出が改善方向にあることを窺わせる。

製造業全体では、総合指数（PMI）が5ヵ月ぶりに 50 を上回ったものの、価格指数の一層の上昇がエネルギー価格上昇の影響の高まりを示し、雇用減が拡大し、在庫増を抱えるなど、50 台回復と言っても先行きが楽観できるとは言えない状況である。

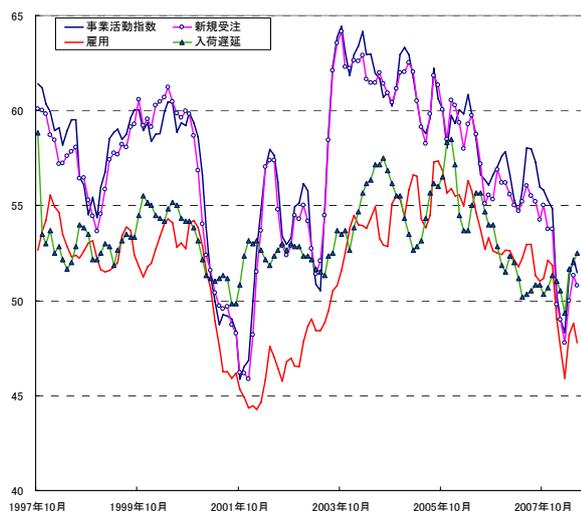
### 3、非製造業の内訳では、価格指数が最高値の半面、雇用指数が最低値を更新

非製造業各指数の中では、価格指数が 84.5（前月 77.0）と大きく上昇、輸入指数 50.5（前月 48.0）が上昇したのを除くと、他の指数はほとんど下落している。半面、下落幅の大きさが注目されるのは、新規受注指数の 48.6（前月 53.6）、雇用指数 43.8（前月 48.7）等で、また製造業と異なり、在庫指数 53.0（前月 54.0）、在庫センチメント指数 60.0（前月 66.5）とも低下を見せている。

特に、価格指数の上昇は製造業と同様にエネルギー価格上昇の影響の広がりを示すもので、価格上昇回答はさらに高まり（5月 65%→72%）、ほとんどの業種（17 業種）で仕入れ価格の上昇が報告された。また、雇用に関しては 43.8 と4月（50.8）から連月で大きく低下し、雇用減を回答した業種は金融・保険、運輸・倉庫、ヘルスケア、人材派遣、卸売業等となる。

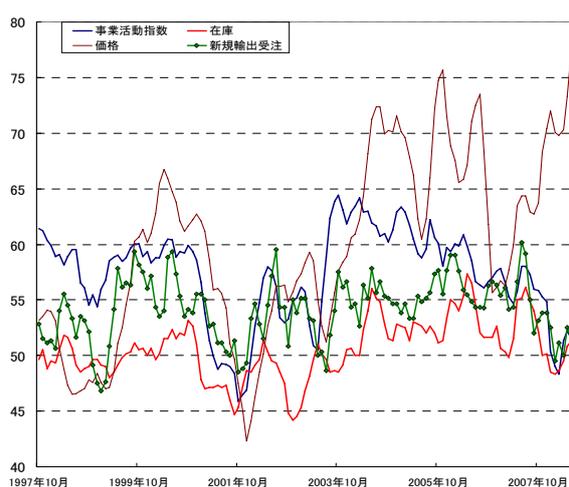
価格指数は 97 年に統計を取り始めてからの最高値であり、雇用指数は過去最低値となる。最終価格への転嫁は抑制されているようであるが、いつまでも耐えられるわけではなく、今後、スタグフレーションの様相が強まることも想定されよう。また、新規受注の急落も先行きの景気減速を窺わせるものであり、6月数値は、エネルギー価格の高騰が非製造業全体の景況感を悪化させている状況を示したものと見えよう。

（図表 4）ISM非製造業指数の内訳（1）



注：3ヵ月移動平均

（図表 5）ISM非製造業指数の内訳（2）



注：3ヵ月移動平均

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。